

弔 辞

山口隆男先生、これまで永きにわたりご厚誼賜りましたことに、まず厚くお礼申し上げます。

私は中学校2年生から3年生まで、教室で先生の授業を受けました。先生の授業は新鮮で、とても魅力的でしたから、放課後は自然に理科好き少年達が先生の部屋に集まるようになりました。

先生の肝いりで「科学クラブ」が発足したのは翌年のことです。先生が学校に掛け合ってくれて、少なからぬ活動費も付きました。約20名の部員達は、先生の配慮の元伸びやかで知的興奮にあふれた環境で、思う存分その好奇心を満たすことが出来ました。私にとってもこの1年は人生の中で、最も生き生きとした時期の一つです。

驚くべき事に、先生は中学生の私達を一個の大人として遇して下さいました。

その後先生のお立場は中学校の先生から、高校へそして大学へと変わっていきました。そして退官後も合わせても、いつお会いしてもいつも変わりなく山口隆男先生そのものでした。

先生は透明で合理的なものの考え方をなさる方でしたが、そこには恐らく先生の強い信念があって、必ず優しさと温かみが裏打ちされていました。これは私達が初めてお会いした先生が22、3歳のころから、今年の1月私が最後に夕食を共に出来た時までの五十余年の間終始変わらぬ一貫した先生の姿がありました。

ところが一方で、先生の探求心、研究心は止まることを知らず、フィールドも次々に広がり、あるいは変わり、お会いするたびに驚いたものです。

先生の全く替わらない生き方の姿勢と、年々変化と広がり続ける研究の分野とのギャップは、時に先生にお会いする私の最大の楽しみでした。

先生は専門の分野で沢山の成果を上げられたものと思います。それに対して十分な評価も受けられたものとは思いますが、先生の真価はもっともっと広く知られて、そして評価されても良いのではないかと、教え子としては若干の不満が残ります。しかしながら名利を求めることを良しとされなかったのも事実であり、私の不満は筋違いなのかもしれません。

弟子が師を評するのは不遜の極みと思いますが、山口隆男先生の75年の人生、「おみごと」と申し上げるのみです。

先生、どうぞゆっくりお休み下さい。本当にご苦労様でした。

平成25年 5月29日(水)

教え子 鹿児島県肝属郡肝付町前田 佐々木 幸久